

文章の構成に対する意識を高め、内容を的確に読み取る力の育成

～段落相互の関係を意識させる要約指導の工夫～

福島県立郡山北工業高等学校 教諭 本間 郁

1 研究の趣旨

研究協力校では、文章が長文化したり、構成が複雑化したりすると、文章を俯瞰的に見て要旨を捉えることが難しくなり、説明的文章に対して苦手意識をもつ生徒が多い。その要因は、主に各段落の内容を正しく読み取る力の不足や段落相互の関係に対する意識不足が想定される。特に、文章を遡って書き手の考えや主張の根拠を見つけ出す力や、段落が果たす役割を理解する力等に課題があった。

そこで、文章の内容を的確に読み取る力を育成するために、形式段落を、文章を構成する小さなブロックとして捉えて、その内容を適切に要約させ、段落相互の関係に対する意識の明確化を図ろうと考え、研究主題を設定した。

説明的文章の指導において、以下の視点に基づく手だてを講じれば、段落相互の関係を意識できるようになり、文章の内容を的確に読み取る力が育成されるであろう。

【視点1】段落の内容を正確に捉えさせたり、段落の役割に気付かせたりするための要約の指導

【視点2】文章の構成や適切な要約についての意識の向上を図る対話的な学習活動の工夫

2 研究の概要

(1) 研究対象および授業実践の概要

研究協力校：福島県立郡山北工業高等学校第1学年 電子科および建築科 計2クラス (81名)

授業実践Ⅰ (各クラス8時間)：「国語総合」評論 『水の東西』(山崎正和著)

授業実践Ⅱ (各クラス9時間)：「国語総合」評論 『コミュニケーションは創造的に』(伊藤進著)

(2) 【視点1】に基づく〈手だて1〉について

本文読解前に、各形式段落を自力で要約させた。また、正確な読み取りの力を育成するために、「要約力UPワークシート」を活用した。また、授業実践Ⅱでは、「段落の役割・関係・構成を捉えるワークシート」(以下、「YKKワークシート」)や、付箋を配置する「YKKサポートシート」を作成して活用した。

(3) 【視点1】に基づく〈手だて2〉について

授業実践Ⅰでは、全文読解終了後、A3の厚紙ボードの上に、各形式段落の要約を記入した付箋を配置し、文章全体の構成を可視化させた。授業実践Ⅱでは、「YKKワークシート」を活用し、段落の役割を考えて相互の関係を捉え、段落同士をつなぐ言葉を考えさせると同時に、「YKKサポートシート」を活用して、形式段落の役割を記入した付箋を配置し、段落構成図を作成させた。

(4) 【視点2】に基づく〈手だて1〉について

要約の必要性や適切な要約方法を、ペアワークで検討させると同時に、各形式段落の要約作成時に、ペアによる相互添削を行った。また、段落相互の関係や構成について着目させ、グループで話し合いをさせた。

(5) プレテストとポストテストによる検証

授業実践を実施したクラスをA群、非授業実践クラスをB群として、プレテストとポストテストを実施した。また、それらの平均点についてt検定を実施し検証を行った。また、A群では授業実践Ⅰ・Ⅱのそれぞれ最初と最後の授業において意識調査を実施し、意識の変容を見た。

3 研究の成果と課題

(1) 研究の成果

今回の研究により、対話的な学習を取り入れながら、形式段落ごとの正確な読み取りをさせるために「要約を考えること」及び「要約を用いて段落構成を意識させること」が、文章の的確な理解に資する効果的な学習方法だと分かった。また、意識調査からも、評論を読むときの意識に変容が生じていることを読み取ることができ、実践の手だても適切であった。

(2) 今後の課題

要約を記述させる際には、伝える相手に正しく理解してもらうために、「書くこと」の領域と関連させた指導が必要であるということに改めて実感した。

また、実践Ⅰにおいては、プレーポストテストの要約問題に字数指定はなく、5行以内で記述させていたが、実践Ⅱでは字数制限を設けた。この時、同内容のまま、字数を削るために「言い換え」や「抽象化」が必要となったが、75%程度がうまくできなかった。妥当性が高い言い換えができる能力は、本文の的確な理解と関係があると考えられるため、新たな研究課題としたい。